

東通原発地点海域温排水等影響調査

小倉大二郎・奈良 賢静・池内 仁
小田切譲二・早川 豊

発 表 誌 名

昭和60年度東通原発地点海域温排水等影響調査

抄 録

1. イカナゴ稚仔分布調査

東通村白糠～小田野沢沖の海域において、5月～6月の間に延べ4回（計53点）、光力利用敷網によりイカナゴ稚仔の採集を行った。

調査海域におけるイカナゴ分布量は、5月上旬の第1回調査（水温8℃台）で最も多く、5月下旬の第2回調査（9～10℃台）に至って激減し、その後6月上旬の第3回調査、6月中旬の第4回調査では分布がほとんどみられなくなった。

調査海域に隣接する泊・尻労地区のイカナゴ稚仔は、脊椎骨数のモードが65個（urostyleを含む）で、これは昨年白糠地区の稚仔について行った計測結果と同数であり、泊～尻労に至る海域に分布するイカナゴは同一系群と推測される。

2. イカナゴ成魚、未成魚分布調査

8月に桁網調査（1回、11点）を行い、計7尾の当才魚（未成魚）を採集した。イカナゴ当才魚が採集された海域は、底質が細砂～貝殻交じりの荒砂で、7尾中6尾は水深6m以浅で採集された。

3. サケ稚魚分布調査

イカナゴ稚仔分布調査と平行してサケ稚魚の採集を行った。

調査海域におけるサケ稚魚の分布量は、第1回調査が最も多く、以後減少傾向を示した。調査点別では小田野沢沖・老部川沖の定点での分布量が多く、水深別では5m線の定点での分布量が多かった。

期間中、調査海域に分布していたサケ稚魚は、標識魚の出現状況等から、その主体が老部川産の稚魚で占められていたと考えられ、これらが6月上旬～中旬頃までに尾叉長7～8cmに成長したものと推測される。なお泊～尻労に至る沿岸域においては、分布していた稚魚の肥満度が5月上旬をピークに、6月上旬以降大きく低下するのが認められた。

4. 餌料生物調査

イカナゴ稚仔分布調査と平行して、丸稚ネットによる餌料生物の採集（計16点）を行った。

餌料生物の分布量は、第1回調査で最も多く、調査点別では小田野沢沖、水深別では10m線が多い傾向にあった。なお水温10℃台以上では減少が著しかった。